

虚血性心疾患の患者がポジティブ思考であると 5年死亡率が下がることに運動が介在

虚血性心疾患の患者においては、ポジティブ思考をもつことで疾患の予後が良くなると考えられているが、そのメカニズムについては明らかではない。この研究では、虚血性心疾患の患者がポジティブ思考をもつことが、心臓病による最初の入院までの期間や全原因死亡率の予測に繋がるか、また、運動がこの関連性に介在しているのかを検討した。デンマークのホルベック病院の虚血性心疾患患者 607 人を対象に、2005 年にポジティブ思考であるかについて、そして、運動をする目的について問う質問票を記入させた。死亡率と入院のデータは 2006 年～2010 年について調べた。

その結果、ポジティブ思考をもつ患者では、総死亡率が有意に低下し (0.58 倍)、よく運動をしていた (1.99 倍)。また、運動を心がけている患者では、追跡期間中の死亡が少なかった (0.5 倍)。

したがって、ポジティブ思考をしている患者は運動をしている傾向があり、5 年間の追跡期間中の死亡率が低いことから、運動がポジティブ思考と死亡率の関連性に介在しているといえる。

出典 : Circulation Cardiovascular Quality and Outcomes. 2013; 6: 00-00